

英語で内容的にまとまりのある文章を書かせるためのパラグラフ・ライティング指導はどうあればよいか

～書くための準備活動の充実と指導過程の工夫を通して～

福島県教育センター 長期研究員 鈴木 信司

## 1 研究の趣旨

英語で内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分ではないという課題に対応して、新学習指導要領では、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」が新たに加えられた。また、近年の福島県立高校入試の結果を見ても、比較的長い日本語を英文に直す問題の平均正答率が大変低く、ある程度の分量があり、内容的にまとまりのある英文を書けるようにすることが、中学生に対する英語の指導において大きな課題である。

上記の課題を踏まえ、1年次の研究では、パラグラフ・ライティングの手法を中学校2年生のライティングの指導に適用した。英文を作成する際、生徒の持つ表現の幅を補うため、英文を作成するためのモデルとなる重要表現集を活用することで効率的な指導が可能になることや、生徒が作成した英文に対して、授業中や授業後の複数の場面において教師や友人から肯定的なフィードバックを与えることで、ライティングに対する意欲を高めることができることも分かった。

与えられたモデルを活用して英文を作成する段階から、自分の発想を生かしながら自分の力で英文を作成する段階にどう引き上げていくかが次の課題となり、以下の研究仮説のもと2年次の研究を進めた。

パラグラフ・ライティングの指導において、マッピングなどの書くためのアイデアを生み出し、分類・整理する活動を充実させながら、自分の発想を生かした英文作成へと移行させる指導過程を工夫することにより、論理的な思考力を働かせながら内容的にまとまりのある文章を書くことができるようになるであろう。

## 2 研究の概要

### (1) 書くための準備活動の充実について

英文を書く準備活動としてマッピングを行った。その際、書くためのアイデアを生み出す段階と、生み出したアイデアを分類・整理してアウトラインの作成につなげていく段階の二段階を設定してマッピングを行った。

### (2) 指導過程の工夫について

#### ① アウトライン作成から下書きを行う段階

与えられたヒントをもとに英文を作成する段階から自分の力で英文を作成する段階へ引き上げるために、英文を作成するためのヒントとなる重要表現を与える方法を工夫するとともに、アウトラインを作成する際の日本語の内容の見直しも行いながら下書きを作成した。

#### ② 下書きに対するフィードバックを生かして書き直しを行う段階

下書きの内容をよりよく改善できるよう、下書きに対する友人や教師からのフィードバックの与え方とそのフィードバックを生かして書き直しを行うための方法を工夫した。

## 3 成果と今後の課題

### (1) マッピングへの取組から

① マッピングを継続して行ったことにより、書くためのアイデアを生み出す方法を理解し、スムーズに英文を書き出すことが可能になった。

② 生み出したアイデアを分類・整理してアウトラインを作成する段階において、読み手にとって理解しやすい文章構成になるようにアイデアの分類・整理を行った。生徒は、抽象と具象の関係や上位・下位概念について意識し、論理的な思考力を働かせながらアウトラインを組み立てることができた。課題として、抽象と具象の関係や上位・下位概念などを取り入れて思考力をはぐくむためには、中学校3年間の中で計画的に学習を積み重ねていく必要があると思われる。

### (2) 指導過程の工夫から

① アウトラインを日本語で組み立てる際、主語と述語を明確にするなど英語で表現しやすい内容に再構成してから英語で表現する活動を行った結果、モデルに頼り切りにならないで英文を生み出す方法を理解し、自分の力で表現しようとする姿が見られるようになった。

② 下書きをする際に、英文を作成するためのヒントとなるモデルを与える量を徐々に減らした。また、下書きを行った後その内容に対して教師が添削を行うかわりに、適切に表現することが難しかった表現を学級全体の共通する課題としてまとめて提示して書き直しを行わせた。その結果、自分の力で考えながら英文を作成しようとする生徒が増えた。

③ 下書きに対して、文と文とのつながりや内容全体のまとまりについて焦点を当てたフィードバックを友人や教師から与え、そのフィードバックの内容を反映させながら書き直しの作業に取り組んだ結果、パラグラフ・ライティングの重要な要素である文と文との結束性や内容全体の一貫性に対する理解を深め、それらの要素を含む英文を作成する生徒が増えた。